



# さらなる競争力強化や利便性向上へ 法人向け外為インターネットサービスを拡充

## 「CrossMeetz」を活用して実勢為替レートによる外貨預金を開始

### 背景

競争力強化や顧客の利便性向上のため、法人向け外為替インターネットサービス「JWEBOFFICE【外為版】」を拡充する。外貨預金サービスを追加するとともに仕向外国送金などの既存サービスをリニューアルしたいと考えた。



株式会社常陽銀行  
市場国際部 国際業務室  
調査役  
富田 岳史氏



株式会社常陽銀行  
市場国際部  
外為集中店長  
佐藤 秀明氏



株式会社常陽銀行  
システム部 開発運用グループ  
主任調査役  
鈴木 雅典氏



株式会社常陽銀行  
システム部 開発運用グループ  
係長  
鈴木 俊太郎氏



株式会社常陽銀行  
本店：茨城県水戸市南町2-5-5  
創立：1935年  
資本金：851億円（2016年3月31日現在）  
経常収益：連結1633億円（2016年3月期）  
従業員数：連結3709名（2016年3月31日現在）

### ソリューション

NSSOLの「CrossMeetz」を引き続き活用して既存サービスの利便性を向上させると同時に、新たに実勢為替レートによる外貨預金サービスを追加する。CrossMeetzと勘定系システムの連携機能はNSSOLに開発を依頼する。

### 成果

地方銀行としては初めて、実勢為替レートによる外貨預金サービスを実現。さらに既存サービスについては、郵送で提供していた計算書などの帳票類をWeb画面上で提供するとともに、サービス提供時間の延長を行った。

### 利便性向上へ法人向け外為インターネットサービスの拡充を検討

「健全、協創、地域と共に」という経営理念のもと、茨城県を中心とする地域社会や地域経済の発展に貢献している常陽銀行。2016年10月から、めぶきフィナンシャルグループの一員として「新たな価値を協創するベストパートナーバンク」を目指している。

同行が法人向け外為替インターネットサービス「JWEBOFFICE【外為版】」のサービス拡充に向けて検討を開始したのは2015年夏である。JWEBOFFICE【外為版】では新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）の「CrossMeetz」を活用して、仕向外国送金、輸入信用状、為替予約の3サービスを提供しているが、さらなる競争力強化や顧客の利便性向上を図るため、各サービスのWeb画面の操作性を改善したりきめ細かな機能を追加したりするとともに、新たなサービスとして外貨預金を追加したいと考えた。

### 「CrossMeetz」の新機能を活用し、外貨預金の即時振替・照会を実現

常陽銀行はJWEBOFFICE【外為版】のサービス拡充に当たり、CrossMeetzを引き続き活用して既存サービスの利便性を向上させると同時に、新規のサービスとなる外貨預金サービスについても、CrossMeetzの新機能を活用して地方銀行初となる実勢為替レートの振替・照会を実現することを決める。同行は2014年、カスタマイズにおける柔軟性の高さなどを基に既存サービスの基盤として、CrossMeetzを選定したが、その特長を今回のプロジェクトでも生かした。新たな外貨預金サービスで必要になるCrossMeetzと勘定系システムの連携機能の開発は2015年11月に始まった。NSSOLは主にCrossMeetz側の開発によって連携機能を追加すると同時に、既存サービスを含むWeb画面については、利用者の目線に立ったカスタマイズを実施した。

### 計画通りのサービス拡充が実現、外貨預金の顧客が順調に増加

計画通りサービスを拡充したJWEBOFFICE【外為版】は2016年9月にスタートした。CrossMeetzを活用して追加した外貨預金サービスでは、操作性の高いWeb画面を使って実勢為替レートで即時に外貨預金振替、および口座残高照会、入出金明細照会が可能になっている。併せて仕向外国送金など既存サービスについては、郵送で提供していた計算書などの帳票類をWeb画面上で提供。サービス提供時間の延長も行った。また、外貨預金の実現に伴う連携機能の開発については常陽銀行の既存アセットをそのまま活用できたため、コスト効率が高いと評価されている。

サービス拡充後、外貨預金サービスの顧客は順調に増加している。常陽銀行は今後も顧客の要望に応じて、JWEBOFFICE【外為版】のサービス拡充を適宜行う予定だ。

## Key to Success

常陽銀行がJWEBOFFICE【外為版】のサービス拡充に取り組んだ理由は、さらなる競争力強化や顧客の利便性向上である。

市場国際部 国際業務室 調査役の富田岳史氏は「国内主要行が法人向けインターネットバンキングサービスを次々に強化するなか、当行も競争力やお客様の利便性をさらに高めることが必要と判断しました」と話す。

市場国際部 外為集中店長の佐藤秀明氏は「インターネットバンキングサービスの競争は年々厳しくなっています。地方銀行初の実勢為替レートに基づく外貨預金サービスを実現するとともに、利用者の目線で既存サービスをさらに改善したいと考えました」と振り返る。

追加する外貨預金サービスとリニューアルする既存サービスの基盤には、NSSOLの外為総合インターネットサービス「CrossMeetz」を引き続き活用した。

佐藤氏は「CrossMeetzは当行の要望や法規制の変化に合わせたカスタマイズが柔軟にできます。今回のプロジェクトでもそうしたCrossMeetzの優位性を評価して選定しました。また、実勢為替レートの外貨預金サービスを提供するには、CrossMeetzと常陽銀行の勘定系システムとの連携が必要になりますが、これまでの実績を勘案して、NSSOLに開発を依頼しました」と話す。

プロジェクトにおけるNSSOLの支援に対する評価は高い。

システム部 開発運用グループ 主任調査役の鈴木雅典氏は「NSSOLと一緒にプロジェクトに取り組むのは初めてでしたが、ドキュメントがしっかりしており、順調にスタートすることがで

きました。実勢レートによる外貨預金サービスを実現するための連携機能の開発は、リスクが決して少なくないのですが、NSSOLは先のことまで見越して案内をしてくれ、実際に大きなトラブルなくプロジェクトを進めることができました」と語る。

### プロジェクトの進め方に安心感 問い合わせに対して迅速に回答

佐藤氏は「利便性向上のカギとなる操作性については、当行が提示した素案を基にNSSOLに新たなWeb画面を提案してもらい、それを基にコミュニケーションを重ねて洗練させました。NSSOLは粘り強く漏れがないように仕事をしてくれました」と話す。

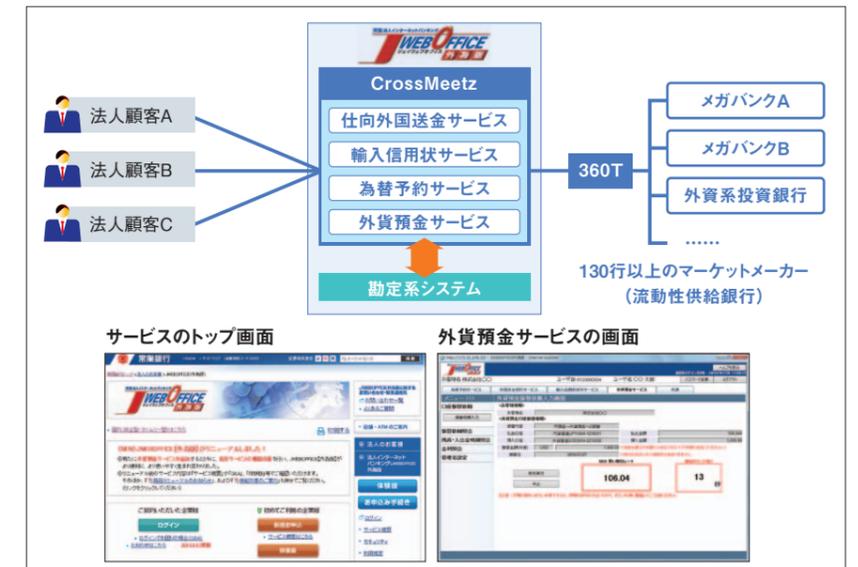
システム部 開発運用グループ 係長の鈴木俊太郎氏は「NSSOLと当行は

綿密にコミュニケーションを行いました。問い合わせにいつも迅速に回答してくれました。ときには面倒な要望を出したこともあります。必要に応じて当行が気づいていなかったことも提案してくれ、助かりました」と語る。

新たなJWEBOFFICE【外為版】の滑り出しは順調だ。

富田氏は「Web画面に対する当行の要望へ柔軟に対応してもらえ、お客様の利便性は格段に向上しています。サービス拡充から1カ月後の10月には、インターネットバンキングの既存のお客様の約20%に外貨預金サービスを追加で申し込んでいただきました。多くのお客様に外貨預金と円預金の振替機能を活用いただけるようにご案内しているところで、今後も利便性向上のため必要に応じて機能を追加していきます。NSSOLやCrossMeetzには引き続き期待しています」と語る。

### ■常陽銀行がサービスを拡充した「JWEBOFFICE【外為版】」の概要



「JWEBOFFICE【外為版】」は常陽銀行のサービス名

### ■コアテクノロジー

360T、金融に関する豊富な業務知識、柔軟性の高いアーキテクチャー

### ■システム概要

●アプリケーション：外為総合インターネットサービス「CrossMeetz」（仕向外国送金、輸入信用状、為替予約、外貨預金）